国語　― 岡山大学　2025 年入試問題分析 ―　岡山進研学院

全体講評：小問数・記述量とも増加。難易度は、現代文が昨年並み、古文は大幅に難化し、漢文はやや難化である。**今回特筆すべきは古文。**和歌の読解自体は過去にも出題されているが、問二・問三・問四のいずれも本文中の和歌を正しく理解できていなければ解答できない。問五はさらに、その和歌がどのような目的で使用されているのか、ということを考えさせるものとなっており、非常に難しい。一方、現代文は記述量が一昨年並みに戻ったものの、総じて解答の方針は立て易かったと思われる。	**試験時間**	120 分
	難易変化	易化　／ 昨年並 ／ (難化) やや易　／　やや難
	分量変化	減少 ／ 昨年並 ／ (増加)

大問	区分	出典・著者	分量・小問数・本文／設問特徴	レベル
一	評論文	『ひらがなの世界 一文字が生む美意識』 石川九楊	4ページは昨年と同じ。11 段落。本文注→1 つ。小問５題。記述量やや増加。解答欄に合わせて本文の具体例を整理し、必要な要素を示せたかどうかがで差がつく。昨年より書きにくい設問であった。	★
二	小説文	『寄生』 小川洋子	9ページ。昨年比で 1 ページ**増加**。小問は１題減少し４問に。問四は、読者による鑑賞という新しい形式。問二は比喩の説明。問三は定番の心情説明。状況を踏まえ、描写の意味を考える必要があった。	★
三	古　文	『伊勢物語』／『万葉集』 『古来風躰抄』 藤原俊成	3ページ。小問５題で一問増加。問一は傍線部和訳。小問数に変化はなく、内容も標準レベル。問二は人物像の説明、問三・問五は内容説明、問四は理由説明であるが、それぞれ条件があり、やや書きにくい。	★★★
四	漢　文	『白氏文集』 白居易	2ページ、小問５題と一問増加。漢詩自体は読み取りやすい。詩の形式、音韻、対句と句法の習得が求められた。問五は詩全体を踏まえて、慰められない作者自身のやるせない「感傷」を明らかにしよう。	★★

学習指針：

現代文･古典ともに学校の教科書学習が有効な設問だった。評論では設問の意図を読み取るために、日頃から文章の要点を段落ごとに整理する練習を積み重ねておきたい。
小説は表現に込められた心情の理由をしっかり書くこと。
古文は、基本的な単語と文法を身につけ、正確な読解力を養おう。また和歌を含む文章も十分読み慣れておきたい。
漢詩の表現技法を習得し、作者の心情を読み取る練習を。

※　難易変化、並びに分量変化は対昨年比となっています。

※　レベル表示は次の区分になります。

難	→	★★★
やや難	→	★★
標準	→	★
やや易	→	（無表示）
易	→	（無表示）